

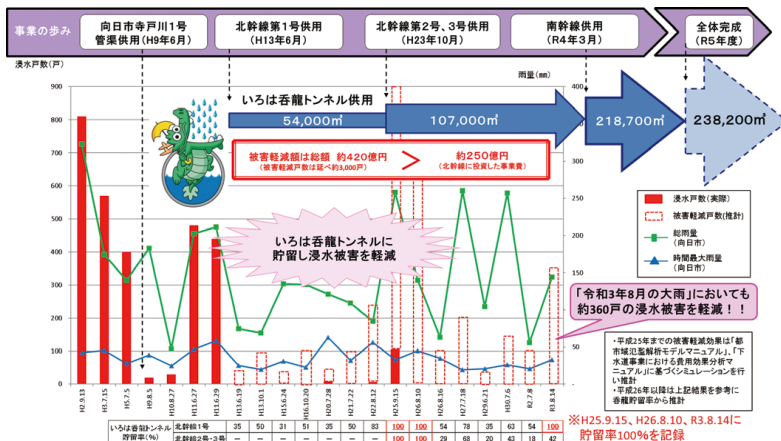
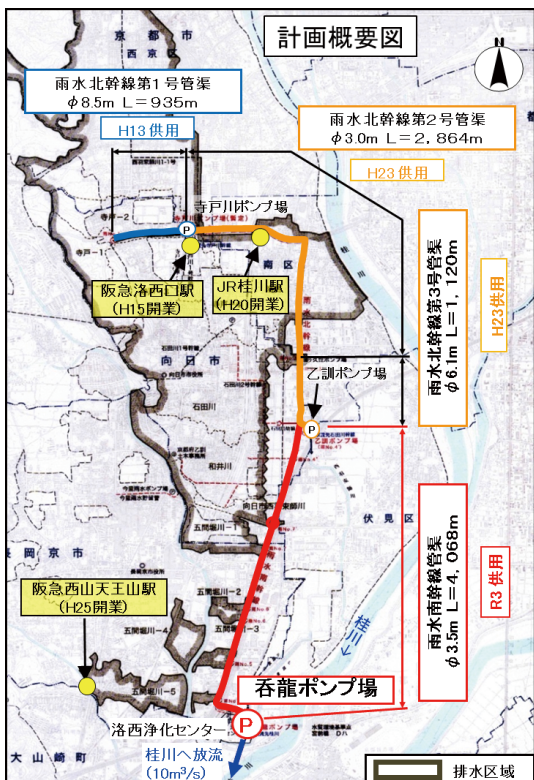
防災・減災部門

桂川右岸地域の浸水被害を防ぎ、まちづくりに貢献する「いろは呑龍トンネル」

京都府

受賞事例の概要

市街地における浸水対策として地下トンネルを整備したことで、浸水に対する安全度が高まり、まちづくりの進展に寄与



PRポイント!

平成7年度から雨水対策事業に着手し、浸水被害の著しい北側エリアから順次供用しながら、令和4年3月の南幹線と呑龍ポンプ場の供用で全線供用となりました。

現在整備中の調整池が完成すると、対策施設としては全て完成し、対策量は合計 238,200m³ (25m プール約 800 杯分)、計画対象降雨である概ね 10年に1回起こりうる降雨 (61.1mm/h) に対応可能となります。

取組の効果!

北幹線の一部を供用した平成13年度以降、浸水被害が大幅に軽減すると共に、周辺地域では新たに3駅が開業し、大型商業施設のオープンやマンションの新築ラッシュにより賑わいを見せています。

南幹線・呑龍ポンプ場の供用により浸水に対する安心・安全が向上し、今後まちづくりが更に進展することが期待されます。

Key Person



建設交通部水環境対策課長 長谷川 広樹

平成20年7月豪雨の際に、JRをアンダーパスする地下道が冠水し、幼稚園の送迎バスが動けなくなり、子供たちが大変怖い思いをしましたが、平成23年の北幹線全線の供用以降、冠水は発生していません。

今後の気候変動による降雨量の増加を見据えながら、引き続き関連市町と連携し、ハード・ソフトの両面から浸水被害軽減に取り組んでいきます。

